

泉 麻人 様

御発言配付資料

〔発言テーマ〕

散歩エッセーの書き手の視線で眺めた地方都市

○散歩の醍醐味

- ・建物の改修や再開発など、時代とともに、街は変貌する。
 - 街の移ろいも風情であり、散歩を通じて、街の変化を感じるのが楽しい。
- ・昔は、街の中にもエリアごとに顔があった。
 - 今はどのエリアも同じようなまちなみが揃ってしまい平板化している。
- ・散歩の醍醐味は、発見。
 - まち歩きをすれば、必ず発見がある。
気まぐれに入りこんだ裏道に見落とされていた史跡が存在していたりする。
道に迷うのも散歩の醍醐味。

○散歩エッセーの書き手から眺めた地方都市

- ・地方都市は、新旧、静動が入り乱れ、
 - 一步、路地裏に入るだけで、都会からの喧噪から離れ、そこに、ゆっくりとした時が流れている。
まちと向き合いながら、癒され、生活に潤いが。
 - 都会の人が訪れれば、癒しの空間、外国人旅行者が訪れれば、日本人の暮らしを感じることができる。
その地の文化をつくるのは、その地に住む人。

○岐阜のまちなみを歩いて

- ・駅前林立する再開発ビルと長良川周辺の歴史的な佇まい
 - 新旧が入り乱れ混在するところが岐阜の魅力
(往年の名鉄市内線のルートなどを巡るのもおもしろい)
- ・昔、御鯨街道を歩いたとき、
旗店、碁盤店、乳母車店など、珍しい専門店が続いていた。
また、湊町と名の付く界限は、その昔、川道で栄えた町と想像される。
どの道にも、ロマンを感じるストーリーが隠れているもの。
- ・また、
岐阜の人の歩きに着目すると、エスカレーターへの追い越しは、右側で東京と同じ。
左側の関西とは違う地域性を、そんなところから感じる。
- ・激しい気候（夏は暑く、冬にドカ雪が降ることも）も
岐阜のまちの魅力の一つと考えている。

【日産自動車 くるまあるき「泉麻人の裏街道を歩く」より】

岐阜・御鯨街道奇妙な専門店が続く道由

岐阜に大学時代の友人がいる。「大野春堂」という老舗の仏壇屋で、いまは社長になっている。彼から、地元の新聞に載せる広告絡みの対談、を依頼された。"癒し"をテーマに二人で話して、下に仏壇の広告が掲載される…なんてつくりのものだ。仕事とはいえ、なかば"旅気分"で岐阜を訪ねた。



写真1 このショットは、仏壇屋さんとお友だちでない
と撮影できない貴重なポイント、である。

岐阜の街は、以前より路線は少なくなったとはいえ、いまだ名鉄の路面電車が走っている。去年惜しくも廃止された谷汲線（たにくみせん）や揖斐線（いびせん）の話をする、「うちの店の前が鉄ちゃん（マニア）の溜り場になってんだよ」と彼がいう。早田（そうでん）通りの交差点にある店に行ってみると、路面を走っていた電車が、ちょうどそこから角の建物の間の専用軌道に入っていくのである。〈写真1〉

こりゃあ鉄道(撮影)のマニアにはたまらないポイントに違いない。学生の頃に一度彼の店でバイトをしたことがあったが、その当時は"電車熱"から冷めていて、そんな景色には無関心だった。仕事の打合せそっちのけで、僕は二階の窓際に張り付いて"ビルの狭間からぴよこっと道路に顔を出す名鉄電車"のショットを狙う。こんな絶景のポイント、学生時代に気づいていたら、古びた〈モ510形〉なんぞの写真をしこたま撮れたろうに…悔やまれる。

翌日、長良川の岸づたいに続く湊町の界隈を歩いた。海辺じゃないのに「湊町」というのは、川運で栄えた町という由来だろう。古めかしい蔵づくりの家並のなかに、季節外れなのに鵜飼のチョウチンをぶら下げている家が目につく。このあたりは鵜匠の家が密集している地域だという。〈写真2・3〉



写真2 湊町の町屋。どっしりとした構え。
いい感じの町並である。



写真3 鵜飼のチョウチン。写真ではわかりづらいが
「レディスファッション シンガポール(株)」とある。

日本三大仏の一つに数えられる正法寺の大仏（竹材のハリボテに金箔を張った、という珍しいつくり）を眺め、名和昆虫博物館を見学して、俗に「御鯨街道」と呼ばれる旧道じみた通りをぶらついた。

家の前に吊り鐘を置いた立派なお屋敷（表札を見ると、ここは岡本商店という何かの店屋だったらしい）、それからこの沿道には変わった専門店が多い。「丸屋旗店」「かめや碁盤店」そして極めつきは「河村ウバ車店」。

ウバとカタカナ書きなので、僕は一瞬「河村ウバ」ってヒトがやってる車店・・・と妙な想像をしたのだが、店内にはちゃんと各種乳母車が陳列されている。しかし、岐阜ではそれほど乳母車の需要があるのだろうか…。これも仏壇などと同じ、家の道具にカネを使う名古屋圏の風土が関係しているのかもしれない。〈写真4・5〉



写真4



写真5

「かめや碁盤店」と「河村ウバ車店」。昔からしっかりと商している感じだ。白いタイヤの乳母車が、非常に目立つ。

もう一つ、岐阜あたりに来たらチェックしてみたい光景、があった。エスカレーターの「追い越し車線」が関西では「左側」に変わる。関ヶ原に近い岐阜あたりが分岐点になっているのではないだろうか…。帰り際、駅でじっくり観察してみたら、ここは東京と同じ「右抜き」であった。〈写真6〉



写真6 エスカレーター右抜きを証明する写真。左抜きは、日本のどの辺りを境に変わるのか。泉先生にぜひ解明してほしい。

(出典：日産自動車 くるまあるき「泉麻人の裏街道を行く」(2002年)

< http://www.nissan.co.jp/CARWINGS/kuruma_aruki/ura_21.htm >
